

＜ 第52回高高神田会のご案内 ＞ 2017.9.4

第16回 東慶寺 秋のコンサート・Finale(フィナーレ)

「室内楽、コントラバス、ヴォイスパフォーマンスの楽しみ」

第16回目を迎えます「東慶寺コンサート」のご案内です。

とても残念ですが、今回の東慶寺コンサートが最後のコンサートとなります。

皆様には是非とも、一緒にフィナーレ・コンサートを楽しんで戴きたく、最後の東慶寺コンサートのご案内を申し上げます。

今回のコンサートで、秋の東慶寺コンサートは第16回目となりますが、神田会の秋のコンサートとしては第17回目となります。

文京区シビックホールでの記念すべき第1回目の「お月見コンサート」を開催したのが2001年11月5日で、白川真理さんをお迎えしてのコンサートでした。

翌2002年10月20日、東慶寺の井上さんはじめ多くの皆様のご協力を戴き、神田会の総力を挙げ、東慶寺秋のコンサート(第1回)が開催できました。

皆様方から大好評を戴きました。その感動(とこちよい疲労)は未だに忘れられません。

それ以来、毎年秋の東慶寺で、藤原清登さんと白川真理さんを中心とした本当に奇跡のような素晴らしい演奏会が開催されてきました。

この17年間の軌跡は、今年の東京玉翠会の総会会報で白川さんが

「東慶寺ラストコンサートに寄せて～『悩める切符売りの少女』17年の軌跡～」

としてまとめておられますが、この機会に、皆様方と一緒に、過去のコンサートをざっと振り返ってまいりましょう。

・・・このうち皆様方は、何回位ご参加戴けましたでしょうか。

プレ東慶寺 2001年11月5日 文京区シビックセンターにて

白川真理(フルート:S52卒) 伊藤尚(ギター伴奏:S52卒)

「中秋の名月の下、フルートを聞くかい」

第1回東慶寺 2002年10月20日 参加者約40名

藤原清登(ベース:S47卒)、白川真理(フルート:S52卒)

ゲスト:長谷川愛子(箏)

「名月 鎌倉の名刹 静かなベースとフルートと箏の演奏」

※当時はその後も毎年開催するなどとは露とも考えず、依ってこの開催に全力投球した記憶がございます。

第2回東慶寺 2003年11月1日 参加者約40名

藤原さんと白川さん(お二人は毎回出演ですので、以下省略します。)

ゲスト:市原綾子(電子ピアノ:S37卒)

「鎌倉の名刹で同窓の演奏をききながら食事・般若を楽しむ夕べ」

- 第3回東慶寺 2004年11月20日 参加者約40名
ゲスト：関口玄子（ソプラノ：S37卒）
「ベース ソプラノ フルートを楽しむタベ」
- 第4回東慶寺 2005年11月13日 参加者約70名
ゲスト：ダビデ・サントラソラ（ジャズピアノ）
「義経ゆかりの秋の鎌倉で紅葉を楽しみながら」
※甲子園出場のおかげで参加者が一気に増加しました。
*あの格好良いイタリア人ピアニストのダビデが亡くなったのは、本当に残念です。
- 第5回東慶寺 2006年10月9日 参加者約60名
ゲスト：小濱明人（尺八：H6卒）
※この年は案内文製作者の怠慢で副テーマがありませんでしたが、小濱さんの尺八はタイトルなしで十分に素晴らしいものでした。
- 第6回東慶寺 2007年11月18日 参加者約70名
ゲスト：小松玲子（打楽器・サヌカイト：小松さんのお父様が高高40卒）
「紅葉 古都鎌倉に流れる音を感じる会」
- 第7回東慶寺 2008年11月8日 参加者約60名
ゲスト：富原淑子（ソプラノ：S57卒）、細井智（ギター）
「文化を進めながら入江さんの追悼をする会」
※プレ東慶寺からの実行委員であられた入江さんの追悼会となりました。
- 第8回東慶寺 2009年11月14日 参加者約60名
ゲスト：國末貞仁（サクソフーン：H9卒）
「秋深くベースと笛の調べを味わう会」
- 第9回東慶寺 2010年11月6日 参加者約70名
ゲスト：西山葵耀古（作曲・朗読）
～古刹の本堂 ロウソクのほのかな灯の下に「フルートによる源氏物語」と「ベースによる平家物語」を楽しみ 古戦場屋島の近くで育った住職夫人と共に21世紀の源平合戦 東慶寺コンサートを楽しむ会～
※楽器以外のゲストを迎えた初めての会、蠟燭の灯にて平家物語の朗読。このあたりから会場の舞台装飾が凝ってまいりました。
- 第10回東慶寺 2011年11月5日 参加者約60名
ゲスト：菅原圭（ギター：菅原道真公のご子孫）
「ギタリスト菅原圭さんのご先祖様は超有名人」
- 第11回東慶寺 2012年11月3日 参加者約60名
ゲスト：寺原太郎（バンスリー、インド古典音楽研究者）、
セクシージョーこと遠藤定（ベース：藤原さんのお弟子さん）
「北インド古典音楽バンスリー」
- 第12回東慶寺 2013年11月9日 参加者約60名
ゲスト：富川政嗣（ドラム）、塚田有香（キーボード）
「半月の夜のコンサート 今年も例年通り開催することができました」
※東慶寺のご住職様のご逝去されたことで開催せざるべきかと悩みましたが、井上さんのご厚意で開催することができました。
- 第13回東慶寺 2014年11月1日 参加者約60名

ゲスト：平田康子（ジャズ・ボーカル）、甲野善紀（武術研究家）

「抜刀とインプロヴィゼーション」

※居合と抜刀の披露。音でも声でもない初めての演目でした。

第 14 回東慶寺 2015 年 11 月 7 日 参加者約 60 名

ゲスト：砂原悟（クラヴィコード）、山村雅彦（ギター：S50 卒）

「バッハを楽しんだのちに二十六夜の月を愛でる会」

第 15 回東慶寺 2016 年 11 月 5 日 参加者約 50 名

ゲスト：トロワ・パルファン（フルートトリオ）、谷口京（オーボエ：H4 卒）

「コントラバスと木管楽器のタベ」

このように、参加者は延べ 900 人に迫り、出演者は 22 人（ちなみに上の出演者の赤文字の方は高高 OB の方）。

こんな恵まれたコンサートが、こんな長期間、よくやれてきたものであります。これも本当に皆様方のおかげであり、心から感謝申し上げなければなりません。

その感謝は、まず何と言っても、東慶寺さん・井上米輝子さん（S45 卒）に申し上げなければなりません。毎年、本堂と座敷を使わせて戴き、演奏後に座敷で供される料理は、井上さんの著作であります「東慶寺 季(とき)の味」であり、まさに絶品に値するものでした。

井上さんの料理のファンになり、料理を食べるために参加するという方も沢山おられました。

井上さんには毎年演奏も聞けないままに庫裏に籠もって大人数の参加者のためにおいしい食事の準備をして戴きました。本当にありがとうございました。

それから、パンフを毎回無償で作成していただいた池上さん（S45 卒）、途中からはすっかり凝った舞台美術をやって戴きました長尾さん（S53 卒）、それから藤原さんのベース（と清登さん本人）の運搬は、当初の小山・神崎から土田さん（S53 卒）に専属運転手として活躍戴きました（運転手ですので飲酒できないのがお気の毒でした）。名簿作成とメーリングリスト管理は、小山さん（S53 卒）、当日の受付兼物販は佐治さん（H3 卒）・阿部さん（H3 卒）と木村さん（H2 卒）を中心にやって戴き、司会は、神崎以外にも、中山、小山、外丸、土田、本澤さんにもやって戴きました。映像関係では、写真撮影は長谷川さん（S29 卒）ご夫妻、映像撮影ではカーキ安藤・高島弘監督、WEB サイト担当の土居さん（S47 卒）という皆様のお蔭で、写真・動画が今も東京玉翠会のホームページ（神田会）で見られます。渡辺会長・三崎屋副会長からは毎回差入を戴きました。

それに外丸さんちのはるか君や池内君ちのかおる姫などにも司会の一部のお手伝いを戴きました。その他にも実にたくさんの方々にご協力戴きました。

レギュラー出演の藤原さんと白川さん、毎年、本番での演奏だけでなく、座敷の宴でも飲食をしながらのゲストも誘って戴いての再演奏、本当に長い間、ご苦勞で、ありがとうございました。

お二人や出演者の方々が、気持ちよく書院でも更に演奏戴けたことで、この東慶寺コンサートは同窓生によるファミリー・コンサートとして実に温かいコンサートとなりました。

本当に皆々様、ありがとうございました。

最後になり申し訳ありませんが、感謝を忘れてはならないのは、これまでご参加戴いた皆様方あります。

皆様方の参加・ご支援なくしては、この東慶寺のコンサートは、ここまで続きませんでした。

皆様方のご協力、ご支援に、この最後の機会に改めて心から感謝申し上げます次第であります。

このように多くの方々に感謝申し上げつつ、
ついにフィナーレとなります東慶寺コンサートのご案内です。



「東慶寺秋のコンサート」

「室内楽、コントラバス、ヴォイスパフォーマンスの愉しみ」

開催日時 : 11月4日(土) 午後3時30分受付 午後4時開演
場 所 : 鎌倉 東慶寺本堂 (JR北鎌倉駅より徒歩3分)
鎌倉市山ノ内1367 Tel 0467-22-1663

※ (なお、会費として **8,000円** (食事をされない場合は **5,000円**) をお願い致します。)
(レギュラー出演者)

藤原清登さん (ベース : S47年卒)、**白川真理さん** (フルート : S52年卒)

(ゲスト出演者)

蠣崎耕三さん (オーボエ)、**砂原悟さん** (ピアノ)、**巻上公一さん** (ヴォイスパーフォーマー)

今回の最後の司会は、今年の東京玉翠会総会の司会をしました女優の**嶋崎真知子さん**
(H5卒) が皆様方と一緒に盛り上がるべく司会を務めます。

(ゲスト出演者プロフィール)

蠣崎耕三 (オーボエ)

1983年京都市立芸術大学音楽学部卒。在学中、第51回日本音楽コンクール入選。84年DAADドイツ政府給費留学生としてミュンヘン音楽大学大学院へ留学。留学中、ベルリン放送交響楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団など数多くのオーケストラへ客演。87年帰国。第4回日本管打楽器コンクール第1位入賞。札幌交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団を経て、現在読売日本交響楽団首席オーボエ奏者を務める。紀尾井ホール室内管弦楽団のメンバーとして、また独奏者、室内楽奏者として活躍する一方、桐朋学園大学教授として後進の指導にもあたっている。岩崎勇、ギュンター・バッシーンの各氏に師事。

砂原 悟 (ピアノ) (一昨年の第14回にもご出演頂いており今回2回目の出演です。)

東京藝術大学大学院修了、ミュンヘン音楽大学マイスターディプロム取得。1984年日本音楽コンクール入選。1987年ポルトガル国際ピアノコンクール(ポルトガル)入賞。1988年クロイツァー賞受賞。現在、日本各地で、独奏、室内楽、歌曲伴奏などの演奏活動とともに、コンクール審査なども行っている。京都市立芸術大学教授、東京藝術大学非常勤講師。CD「クラヴィコードの植物文様(藤枝守作曲・milestoneレーベル)発売中。

巻上公一 (ヴォイスパーフォーマー)

ヒカシュー(究極のノンジャンル音楽ユニット。即興とソングが共存する方法論で独自の活動を続けている。)のリーダーとして1978年から現在に至るまで作詞作曲、声の音響(voice performance)、電子楽器・テ

